

2004年6月8日

株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
2-5 F・Kビル
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
URL : <http://www.fuji-keizai.co.jp>
広報部 03-5614-1078
(6/14以降 03-3664-5697)

デジタルカメラ関連ビジネス市場調査を実施

- 06年の関連ビジネス市場予測3.2兆円、カメラ付携帯電話が牽引する複合デジカメ市場 -

総合マーケティングビジネスの㈱富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務 03-3664-5811)は2004年2月～5月に掛けて、デジタルカメラ関連ビジネス市場を6分野に分け、39の商品、部材およびサービスについて調査を行なった。その結果を報告書「2004デジタルカメラ関連ビジネスの全貌」にまとめた。

<調査のまとめ>

デジタルカメラ関連市場

03年は2兆6278億円(前年比123%)06年市場予測3.2兆円(03年比122%)

デジタルカメラ関連市場は、カメラの新しい利用方法を提案し、幅広く新市場を創出し、関連部材や関連商品、関連サービスを含めて幅広く注目を浴び、活況を呈してきた。

デジタルカメラ市場は好調に推移し、2003年下半年～2004年上半期にかけてはカシオ、ソニーのスタイリッシュカメラが爆発的にヒットした。また、600万画素クラスの低価格(10万円前半)一眼レフカメラをキヤノンが発売し、ニコンも続き、デジタル一眼レフカメラブームを起した。それに対抗して、交換レンズ群を持たないソニーがレンズ一体型の一眼レフカメラ「ネオ一眼レフカメラ」の高画素タイプ(800万画素)を市場に投入した。

携帯電話市場では、100～200万画素のメガピクセルクラスのカメラ付き携帯電話が本格的に普及しはじめ、トイカメラや下位のエントリーカメラと競合が激しくなってきた。

銀塩フィルムカメラはデジタルカメラの普及により一部の固定ファン以外のニーズを失い、市場は減少し続けている。特に「APSカメラ」は新規商品の開発も行われず、事業の将来構想が描けない。

デジタルカメラ及び関連市場のポテンシャルが増加し、デジタルカメラ関連ビジネスへの注目度がさらに一層高まって来た。

<注目される個別の市場>

カメラ付携帯電話

03年は1兆3440億円(前年比120%)06年市場予測1.4兆円(03年比104%)

カメラ機能は、2003年にはほとんどの携帯電話に搭載され、「あって当たり前」となった。2003年後半から2メガピクセルカメラ搭載機種も登場し、顧客に仕様を数字ではっきり訴求できるため、各メーカーはさらなる高画素化に向けた技術開発を行っている。

2002年は数量ベースで対前年比2%減と市場はやや縮小したが、2003年はメガピクセルカメラ付き携帯電話が本格的に普及し始め、対前年比12%増に持ち直した。すでに8000万人以上が携帯電話を持っており、これまでのような新規需要は見込めない。魅力ある携帯電話として買い替え需要を創造することが求められる。メーカー各社では、さらに高度なカメラ機能、テレビチューナー付きなどの開発が進められており、今後も市場は緩やかに拡大してゆくとみられる。

ネオ一眼レフカメラ

03年は125億円(前年比260%)06年市場予測173億円(03年比138%)

ネオ一眼レフカメラは、コンパクトデジタルカメラの上位モデルとして、各メーカーが最高位の技術を投入した商品。ハイスpek指向で高価な一眼レフカメラまで必要としないアマチュアユーザー対象。

2003年の市場は、数量ベースで27万台となり前年の2.7倍の高い伸び。富士写真フィルム、オリンパス、ニコン、コニカミノルタなどメーカー各社が次々に新製品と投入して、この分野の品揃えを強化したためである。

2004年は、さらにソニーが最上位モデル Cyber-Shot DSC-F828 を発表。キヤノンはコンパクトカメラ技術の結晶 PowerShot Pro1 を発表してラインアップを充実させた。メーカー各社から後継機が続々と投入されることが予測され、2004年の市場は35万台と前年比30%増が見込まれる。但しネオ一眼レフカメラはハイエンドユーザーをターゲットとしているため、2005年の40万台をピークに横ばいで推移すると予測される。ネオ一眼レフカメラの商品化は、従来型のレンズ交換式一眼レフの品揃えが手薄なメーカーが中心となっている。レンズ交換式一眼レフカメラを商品化することは、レンズそのものの開発費や販促費がかさむうえ、新たにブランドを定着させる困難をとらなうためである。レンズ交換式一眼レフカメラの性能に近づけながらも、コンパクトデジタルカメラで培った技術を搭載し、レンズ交換の手間を省いて高度な写真表現を可能にするネオ一眼レフカメラの開発が進められている。

インターネット経由プリントサービス

03年は29億円(前年比363%) 06年市場予測44億円(03年比152%)

現在、この市場規模は約29億円と推定され、デジタルプリントニーズの高まりやブロードバンドの普及により2005年に向けて対前年比115~127%の成長が期待される。

サービスの種類・内容は画像プリントのほかに、ネット公開、メール添付、携帯電話での閲覧など多岐に亘っており、利用者はデジタル画像を使った様々なサービスを利用できる。

富士写真フィルムの「フジカラーネットサービス」は同社専用サーバーとDPE店をインターネットで結ぶサービスである。現在、ネット上からデジタル画像のプリント受注が出来るDPE店は2000店に達している。2003年の利用実績は3000万枚、10億円と対前年比約3倍の急激な勢いで伸びている。利用者は自宅に居ながらにして注文できる利点があるが、認知度の低さやセキュリティ・操作などに対する抵抗感から、利便性の大きさに比べて普及はまだ小範囲にとどまっている。今後は、インターネット経由プリントサービスの認知度を向上させることである。女性や高齢者なども含めた一般利用者に分かりやすい仕組みとセキュリティを提供することも、利用拡大には必要不可欠である。

<分野別市場の概要>

1. デジタルカメラ、銀塩フィルムカメラ市場

デジタルカメラ 03年は2424億円(前年比114%) 06年市場予測2393億円(03年比99%)

銀塩フィルムカメラ 03年は587億円(前年比73%) 06年市場予測457億円(03年比78%)

2003年のデジタルカメラ市場は、金額ベースで2001年比34%増であった。それに対して銀塩フィルムカメラ市場は2001年比40%減。銀塩フィルムカメラからデジタルカメラに需要が急激にシフトした様子が窺える。台数ベースでデジタルカメラ(PCカメラ除外)が2001年(533万台) 2003年(849万台)で59%増であるのに対して、銀塩フィルムカメラ(レンズ付きフィルム、インスタントカメラ除外)が2001年(307万台) 2003年(124万台)で60%減となり、カメラの絶対数も大きく銀塩フィルムカメラが減少した。

2004年以降は、ある程度買い替えが進んだデジタルカメラ市場では、数量ベースでは緩やかな増加へと変化し、銀塩フィルムカメラも下げ止まり感がみえてきたことから緩やかな下降で推移すると見込まれる。また金額ベースでは、低価格化が進むデジタルカメラ市場は2003年をピークにほぼ横ばいで推移すると見込まれる。

2. デジタルカメラ機能複合商品市場

03年は1兆5313億円(前年比117%) 2006年市場予測1.52兆円(03年比100%)

デジタルカメラ機能複合商品のうちマルチカメラとノートPCは、写真、ビデオを楽しめる今までにない娯楽性とデザインで若者層にアピールして新しい顧客層を開拓しており、今後大きく市場が伸びると予測される。

カメラ付き携帯電話は今や標準仕様化しており、新機能商品による買い替え需要の喚起による緩やかな伸びが期待される。

デジタルビデオカメラ、PDAの市場は、2003年にほぼ需要が一巡しており、あまり大きな成長は見込まれない。

3. デジタルカメラ主要部材市場

03年は5313億円(前年比152%) 2006年市場予測8638億円(03年比163%)

カメラモジュール(撮像素子+レンズ+画像処理LSI)は携帯電話向けが中心である。エントリーカメラ以上のデジタルカメラに関しては撮像素子、レンズ、画像処理LSIが個別に設計され、使用されている。デジタルカメラメーカー間の競争が激しく、差別化商品を開発していく為に汎用カメラモジュールを採用しないためである。しかし、エントリーカメラの中で「低価格」を差別化要素に盛り込んだ機種は今後汎用カメラモジ

ユーザを採用する動きが増えると思込まれる。

画像処理 L S I は携帯電話の高機能化によりカメラモジュール向けの出荷が増えると予測される。液晶パネルは中級機以上で電子画像ファインダー用の新規用途が見込まれ、需要が拡大する。

4. デジタルカメラ関連商品市場

03年は2380億円(前年比134%) 2006年市場予測4670億円(03年比196%)

デジタルカメラ本体の市場成長にあわせて、関連商品も市場全体では規模を拡大している。

記録メディアが最も市場の伸長が著しい商品である。国内メーカーが主な規格提唱企業となって市場を牽引しているが、記録メディアを使用する製品の開発が盛んに行なわれていることを受けて主力のデジタルカメラ以外への展開(特にカメラ付き携帯電話)が進んでいる。デジタルカメラ需要の拡大という要因にプラスアルファの需要も加わり飛躍的に市場が成長している。

デジタルカメラで撮影した画像データをプリントするための商品(専用プリンタ/セルフプリント端末機/デジカメ画像ソフト)は、デジタルカメラの高性能化・高画素化が進んできたことから従来のフィルムに近い写真品質の実現も可能となり、フォトプリントに対するユーザーのニーズが徐々に高まっていくと予測され、今後市場は拡大していくと思込まれる。

交換レンズ/外部ストロボ/顕微鏡用アダプタは、銀塩フィルム一眼レフがマイナス成長を続けてきた影響から市場を縮小させていたが、近年のデジタル一眼レフカメラ市場の好況で回復基調となっている。今後もデジタル一眼レフカメラの成長が期待され、堅調に推移すると予測される。

5. デジタルカメラ関連サービス市場

03年は261億円(前年比229%) 2006年市場予測447億円(03年比171%)

デジタルカメラ関連サービスではDPE店とフィルムメーカーが一体となった「お店でデジカメプリント」キャンペーンなどもあって、DPE店頭プリントサービスが広く一般消費者に認知された。いまや、安心感や信頼性そして利便性が高まって、銀塩フィルムプリント需要を取り込み急速に成長している。

<調査の概要>

調査対象:(1)デジタルカメラ分野 7品目(2)銀塩フィルムカメラ分野 6品目(3)デジカメ機能複合商品分野 6品目(4)デジタルカメラ主要部材分野 9品目(5)デジタルカメラ関連商品分野 8品目(6)デジタルカメラ関連サービス分野 3品目

調査期間: 2004年2~5月

調査方法: 弊社専門調査員の対象企業、関係団体、官公庁などへのヒアリング調査および業界の統計データを参考使用

以上

資料タイトル : 「2004デジタルカメラ関連ビジネスの全貌」

体裁 : A4判 260ページ

価格(税別) : 100,000円(税込み105,000円)

調査・編集 : 名古屋マーケティング本部 TEL 052-232-9200(代)

発行所 : (株)富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL 03-3664-5811(代) FAX 03-3661-6093

e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp>